



放送予定
4月11日
4月18日

お坊さんステーションにたま
に出演しています。
毎週火・金 午後6時10分
FM福山 77.7mh

親鸞聖人 750 回大遠忌法要

10月14日、15日の二日間にわたり京都西本願寺へ宗祖親鸞聖人の750回大遠忌法要へ団体参拝に行き参りました。神石組8カ寺で約160名の参加をいただき、正善寺からも20名近くの参加がありました。この法要に正善寺住職はなんと結衆として出勤という名誉をいただきました。しかも第三席という一般寺院では最高の席へ座るといふ名誉も賜り、感動とともにこの上ない緊張をいたしました。。

法要は正善寺住職継職奉告法要でお勤めされた音楽法要でした。全国からは参じたご門徒で満堂の中でのお勤めに参加されたご門徒の皆様も感無量の心境だったと思います。二日目は、本山前にできた龍谷ミュージアムを訪れ、昼は精進料理で有名な大徳寺の鉄鉢料理をいただきました。たくさんの器にもられた料理に舌鼓を打ちながらも、その器を重ねていくと、全てが一つになるという不思議な料理でした。そして兵庫県の斑鳩寺へ行き重要文化財の塔前にて記念撮影いたしました。。

前日の記録的な雨がすっかり上がって心地よい旅になりました。。



12月31日-1月1日 除夜会・元旦会
3月25日10時 春彼岸門信徒永代経法要
講師：鴨川北組円福寺住職 三條義見師

元旦会にお参りの方には
親鸞聖人750回大遠忌法要
記念の本山特製風呂敷を
贈呈します。また、今年も
大食いそば大会をします。



浄土真宗本願寺派 熊原山 正善寺
〒720-1621 広島県神石郡神石高原町李 416
TEL/FAX0847-82-0401

HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~shozenji/index.html>
BROG <http://blog.goo.ne.jp/kuma1098>

「弥陀の 48 願の内の第一願」について考えてみたいと思います。親鸞聖人は仏の教えとは「仏説無量寿経(大無量寿経)」であるといわれました。さらに「大無量寿経というは四十八願を説きたまへる経なり」ともいわれました。つまりたくさんのお経がありますが、阿弥陀如来の本願こそが、お経の本質ということになります。

弥陀の本願というのは、お釈迦様がお生まれになられるずっとずっと昔の事です。法蔵菩薩という方がおられました。この方が仏(如来)様になられるために、何千何万年もの修行をされて、こういう国を造りたいという願いから、何万年もの修行をされて成就されたのが、理想の国である極楽浄土という国です。ですからこの国王は、法蔵菩薩が印位されて阿弥陀如来とされましたので、阿弥陀如来です。

その極楽浄土を建立するにあたり、48 もの願いがあったのですが、いったいどういう願いだったのでしょうか。第一番目の願は、「たとひわれ仏を得たらんに、国に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ。」現代風に直しますと、「たとえ、私が仏となっても、私の国に、地獄・餓鬼・畜生があるならば、私は正覚を取りません。」という願です。48 の願い全てに共通して最初に設我得佛、最後に不取正覚があります。これは、最初に私がもしも仏にならせていただければという意味で、途中でいろいろな条件をあげ、最後にはそうでなければ、仏にはなりません。といわれます。つまり第一願では、お浄土の国には地獄や餓鬼道、畜生道といった三種類の悪い世界、三悪道というのですが、そんな悪いところが微塵もないといわれるのです。「往生要集」によりますと地獄には八種類あるとされています。それは等活・黒繩・衆合・叫喚・焦熱・大焦熱・無間の八種類です。例えば、等活地獄とは人間の住むこの世界の地下 7,400km にあって、殺生を犯した者が墮ちるといわれます。ここに住む者は、互いに害心をいだいて殺しあいます。死ぬと獄卒がその骨や肉を粉々にして、風が吹くとまた生きかえって同じことを繰り返すといわれます。この等活地獄にはさらに十六種類もの付属の小地獄もついています。次に餓鬼道ですが、餓鬼とはいわゆる鬼のことをいいます。常に飢え、のどの渇きに苦しむ世界だそうです。そして畜生道とは、鳥や獣、虫、魚などのすべての動物をいいます。その動物同士は智恵が無く、常にお互いを殺しあうような苦しみの世界だそうです。

もちろんお浄土という国は法蔵菩薩の理想郷ですので、地獄のような世界がその中にそもそもあるはずがないのですが、私はお浄土にすむ人たちの心がみんな清らかで美しく、鬼のような心や、他を傷つけるような心のまったく無い澄みきった心の持ち主だけが住んでいる国だといえると思います。

なるほど仏具④「仏飯器」

毎朝お仏壇にお供えされるお仏飯を入れる器を「仏飯器(ぶっぱんき)」といいます。必ず炊きたての白米をお供えします。お供えしたご飯はおつとめの後ですぐに下げます。(もちろん食べても構いません)もり方は、大(山)盛りで盛り付けます。円柱に盛る場合もあります。阿弥陀仏の前に一つお供えします。また脇掛に一つずつ(計 3)お供えする場合もあります。寺では阿弥陀仏の前は 2 つ供えます。一つは阿弥陀仏、もう一つは釈迦仏に供えているといわれています。また正善寺報恩講法要のみ親鸞聖人前には特盛りのお仏飯が登場します。年一回しかないのでぜひ見に来て下さい。。

